

11/11 (日) 一文字に思いを込めて

文化会館小ホールで、「第10回一文字書道コンクール」の表彰式が行われました。このコンクールは、毛筆書道の伝統文化を継承し、日本文化の発展に寄与することを目的に、書家の柿沼流氏を中心に企画・開催されたもので、全国から1,760点の作品応募がありました。

表彰式では、一文字大賞を受賞した前川ももなさんに向けて、柿沼氏からは「のびのびと大きく書かれた前川さんの作品「手」のように、将来、自分の夢をその手でつかんでほしい」と励ましの言葉がかけられました。



▲賞状にも柿沼氏の思いが込められている。
▲表彰を受ける前川さん(愛媛県松山市)。「将来は、書道の先生かデザイナーが夢」とうれしそうに話してくれました。

11/18 (日) コミュニティのつながり

17日(土)からの2日間、片岡公民館で「片岡地区コミュニティ文化祭」が開催されました。今年で39回目を迎えるこのお祭りは、芸術文化の振興や地域住民の交流を目的として行われている片岡地区の一大イベントです。

コミュニティホールでは小・中学生による合唱や地域の方の民謡などの発表が行われ、日ごろの練習の成果を披露しました。また、公民館には絵画や写真、盆栽などが展示されたほか、つくたて餅の配布ややきそば・ピザなどの出店があり、訪れた多くの方を楽しませました。



11/18 (日) 栄養を学んで強くなる

エコモデルハウスで、公認スポーツ栄養士の大津智仁さんを講師に迎え、自転車と栄養をテーマにした講座「しょくじではしる」が開催されました。この講座には自転車愛好家など15人が参加し、強く・健康になるための「食事・練習・休養」のバランスと質の大切さについて学びました。

参加者からは「日ごろから栄養素や食事の取り方に気を付けて、大会の時には最高のパフォーマンスを発揮できるようにしたい」との感想がありました。



11/18 (日) 山縣有朋公をしのぶ

紅葉に囲まれた山縣有朋記念館に、NHKで放送された大河ドラマ「西郷どん」で、山縣有朋公を演じた県内出身俳優の村上新悟さんが訪れ、記念館周辺を散策した後、館内の遺品などの展示物を熱心に見て回りました。

村上さんは「県内出身の私が山縣役を演じ、そしてここに来られたことに、何か縁を感じる。山縣公に関わる史料を読み込み、その人が生きてきた歴史を取り込んで演じた。愚直・真面目という山縣像は間違っていなかったと再認識できた」と語ってくれました。



矢板の冬の風物詩・イルミネーション点灯中!

11月30日(金)に、矢板駅前でイルミネーション点灯式が行われ、高さ15mのヒマラヤ杉やその周辺が約30,000個のLEDライトで彩られました。すみれ幼稚園児たちによるハンドベル演奏のほか、やいた応援大使「えりのあ」さんのミニライブが開かれるなど、会場は温かい空気で包まれました。

また、12月1日(土)には、片岡駅西口で点灯式が行われ、約10,000個のLEDライトと幻想的に揺らめくキャンドルが駅前を彩りました。地元出身バンドなどによるライブでは、振る舞われたけんちん汁やコーヒーを片手に、集まった方たちが楽しそうに聴き入っていました。



11/20 (火) 安心のために協力

生涯学習館で、全建総連矢板支部と「災害時の応急対策の協力に関する協定」を締結しました。この協定は、災害時に避難所となる公共施設の補修や仮設住宅の建設、資機材の調達・運搬といった応急対策活動に対し優先的に協力いただける内容で、県内では4番目の締結となります。

協定に際し、市長から「日ごろから地域に密着して仕事をされている方たちの協力は心強い。災害時は連携して応急対策に万全を期したい」、田中支部長からは「安心して住めるまちになるよう全力を尽くしたい」との話がありました。



▲(右から)
・石綿副支部長
・齋藤市長
・田中支部長
・小原会計
・永井専門部長

11/28 (水) 地域の宝を守る

山田地区のため池で、国指定天然記念物のミヤコタナゴの生息状況調査が行われました。この調査は、平成13年度から毎年実施しているもので、山田ミヤコタナゴ保存会のメンバーを中心に県関係機関協力のもと、池の生き物の種類や数などを調べたほか、天敵となるザリガニなどを池から出しミヤコタナゴが生息しやすい環境づくりを行いました。

今回の調査では187匹の生息が確認され、今後も絶滅が心配されている地域の宝を守るため、保存会では見回りや下草刈りを定期的に行っていく方針です。

